

<株式会社エフエム東京 第 4 3 1 回放送番組審議会>

1. 開催年月日：平成 28 年 9 月 6 日（火）
2. 開催場所：エフエム東京 本社 10 階 大会議室
3. 委員の出席：委員総数 6 名（社外 6 名 社内 0 名）

◇出席委員（6 名）

横 森 美 奈 子 委員長	渡 辺 貞 夫 委員
内 館 牧 子 委員	秋 元 康 委員
ロバート・キャンベル 委員	川 上 未 映 子 委員

◇欠席委員（0 名）

◇社側出席者（10 名）

富木田 代表取締役会長
千 代 代表取締役社長
平 専務取締役
吉 田 常務取締役
村 上 取締役 編成制作局長
山 科 常勤監査役
森 田 編成制作局コンテンツ開発特命担当 兼 株式会社グランド・ロック代表取締役社長
延 江 編成制作局 ゼネラルプロデューサー
宮 野 編成制作局 編成制作部長
松任谷 編成制作局番組プロデューサー（オブザーバー）

◇社側欠席者（0 名）

【事務担当 村上放送番組審議会事務局長】

4. 議題： 番組試聴（約 20 分）
『木村拓哉の WHAT' S UP SMAP!』
2016 年 8 月 19 日（金）23:00～23:30 放送
2016 年 8 月 26 日（金）23:00～23:30 放送

＜議事内容＞

議題 1:最近の活動について

■2016 年 6 月度 聴取率調査結果について

2016 年 6 月度の首都圏ラジオ合同聴取率調査結果が、ビデオリサーチより発表されました（調査対象期間：2016 年 6 月 13 日～6 月 19 日）。

当社コアターゲット M1F1 層（男女 20～34 歳）において、今まで課題であった M1 は調査回ごとに数字をあげておりましたが、今回単独で首位を獲得、従前から強みを発揮していた F1 は今回もトップで 8 期連続トップとなり、その結果 M1F1 合算で単独第 1 位となりました。20 代女性、30 代女性区分も 1 位で「女性に強い TOKYO FM」というブランドを堅守しました。

また 12～59 歳区分において、前回調査（4 月）は 2 位でしたが今回は首位を獲得、M1F1 を核とし、幅広いリスナー層の支持を得る結果となりました。12～59 歳区分のリーチ（到達率）においても 15 期連続で単独首位を継続しております。

「感動を提供し、共感を得る」という当社理念の具体的実践を積み重ねてきた成果と認識しています。

今後も若者層を中心に、幅広いリスナーに共感される話題、選曲を精査し、また継続聴取・聴取頻度のアップを図った企画演出を講じ、さらなる聴取率の向上を目指します。

■渋谷スペイン坂スタジオ クローズについて

1993 年 6 月に渋谷パルコ PART1 に誕生してから 23 年間、公開生放送のサテライトスタジオの代名詞でもあった「TOKYO FM 渋谷スペイン坂スタジオ」が渋谷パルコの全館改築工事に伴い去る 8 月 7 日（日曜日）をもってクローズとなりました。’90 年代以降の音楽カルチャー屈指の発信拠点として若者の支持と共感を獲得、国内外の人気アーティスト延べ 3,500 組が出演し、全国からリスナーがスペイン坂スタジオに押し寄せることが名物となり、渋谷の観光名所化、ランドマーク現象にもつながりました。

TOKYO FM ではリスナー、関係者への感謝を込めて、7 月 18 日から最終日となる 8 月 7 日までの期間、「Thank you! See you! TOKYO FM 渋谷スペイン坂スタジオ」と銘打った感謝祭キャンペーンを開催し、様々な番組が同スタジオから連日公開生放送を実施、フィナーレの瞬間には道路に溢れるほどのリスナーが大挙して駆けつけ放送終了後も長く出演者、スタッフとともに名残を惜しみました。

また 2007 年 3 月に東京ミッドタウンのオープンと同時に開設された TOKYO FM Midtown Studio も契約期間終了のため年内一杯でクローズとなります。

当社としては将来的にも渋谷という若者カルチャーの発信拠点にこだわり、リニューアル後のパルコと新スタジオ計画を協議してまいります。



▲8/4 「これから、何する？」
高橋みなみ&ふなっしー



▲8/7 パルコ劇場最終公演直前
渡辺謙・南果歩夫妻も登場



▲8/7 スペイン坂ファイナル
「Skyrocket Company」リスナーと

■リオデジャネイロ・オリンピック対応について

8月5日(金)～21日(日)、南米で初めてのオリンピック開催となるリオデジャネイロ・オリンピックが実施され、TOKYO FMでは民放連ラジオ101社の統一企画のほか、各番組での応援企画や、当社独自取材によるリオ五輪出場の日本代表選手が試合前に聴く曲や心の支えとなっている曲をオンエアする「アスリートたちの Cheer Up Songs」などの盛り上げ企画を展開しました。

また、現地には当社報道部員を派遣し、大会の熱気とともに日本選手勢の活躍に応じたタイムリーな取材レポートはもちろんですが、リオのリアルな街、市民の姿も取り上げ、日本のメダルラッシュに沸いた本大会を様々な角度から取り上げました。

■株式会社「グランド・ロック」設立について

当社は従来から展開している「統合メディア戦略」の更なる強化として、次世代のカルチャーを創造しライフスタイルを変革するコンテンツを創造、発信し、“未来標準のムーブメント・デザイン”を目指すクリエイティブ会社、株式会社グランド・ロックを9月1日に設立しました。

グランド・ロックでは、ラジオ局が培ってきた一人ひとりと深く向き合うパーソナル・コミュニケーションの発想をベースに、「番組」を起点として、「イベント」「デザイン」「プロダクト」「音楽制作」「動画制作」など、様々な領域に渡り、有望なクリエイターとの連携を図って新時代のコミュニケーションをデザインしていきます。

【委員の意見および社側説明】

（「○」委員意見／「■」社側説明）

■（お手元資料にある聴取率のデータを見て）在京局の全番組からのM1層、F1層、20代男性、20代女性のランキングであるが、女性層においては、このような好調な結果を収めることができた。特に4月からスタートした高橋みなみさんの「これから何する？」という番組は、4月、6月の調査において女性層に非常に高いシェアを占めており、4月改編の成果として中心的な要因となっていると考えられる。

M1層の首位である、TBSラジオの伊集院光さんの番組も4月からの新番組である。手強い番組になるのではと予想していたが、実際に非常に強力な結果が出ている。

○やはりラジオ番組の場合には「ここでしか聴けない話」という強みが一番の訴求力であると思う。伊集院さんの場合には、もちろんTVにも出演しているが、長年に渡ってラジオでパーソナリティを続けた結果が出ていると考えられる。だから“パーソナリティを育てる”という意味においてTBSラジオは成功していると言えるし、このような現象はラジオならではのと思う。TV番組の場合だとそこまで長時間かけて出演者の成長を待つことができないので、ラジオは“信じて育て続ける”ということができるかどうか、ということが命だと思う。

○新しいパルコには、やはりスタジオを作るのか？

■これから協議に入る予定である。新渋谷パルコは2019年に完成と聞いている。スペイン坂スタジオは渋谷の若者文化の発展と“路面スタジオ”というロケーションの良さにも大変に恵まれた。今後も“渋谷”という立地についてはこだわっていきたいと考えている。

議題 2 : 番組試聴

【番組名】 『木村拓哉の WHAT' S UP SMAP ! 』

【放送日時】 2016年8月19日（金） 23:00～23:30 放送 <冒頭のみ>
2016年8月26日（金） 23:00～23:30 放送

【番組概要】

本日ご試聴いただくのは、8月26日（金）に放送した『木村拓哉の WHAT' S UP SMAP ! 』です。この番組は、1995年1月にスタートした20年以上続く長寿番組で、SMAPのメンバーである木村拓哉が全国のリスナーとの2WAYをベースにしなから、テレビなどでは語らない「ここだけの話」をお届けしています。

今回は、8月14日のSMAP解散報道直後に急遽コメントを収録した8月19日（金）の冒頭部分、そして、翌週8月26日（金）の放送を試聴いただきます。本放送はマスコミ各社でも大きく報道されましたが、解散発表後に番組宛に多数届いたファンからの悲痛なメッセージや厳しい意見を一通一通丁寧に取り上げ、自らの言葉で現在の心境を真摯に答えた内容となっています。

*当日のオンエア曲

- ファッション / デヴィッド・ボウイ
- ありがとう / SMAP

【委員の意見および社側説明】

（「○」委員意見／「■」社側説明）

○今回の試聴番組は、少し特殊だと思った。冒頭の一人語りの部分は良かったと思うが、木村さん本人の“自分は何を言えばいいのか、自分は何を求められているのか”という迷いが見え隠れしていた。

番組内容としては今回の件に関するファンの愛情や不安や怒りを受け止める、ということに尽きたと思う。しかし、もう少し工夫するのであれば、さらに2つのことができたのではないかと思った。一つは今言ったように、言葉の迷い箸というのか、その状態を捉えて比喻を使ったり、一瞬はずして違う話をしてみたりすることでその時の自分の気分を伝える、ということができたと思う。しかし今回はそれをせず、自分のそのままの状況について言葉をゆっくりとつないでいただけのように感じる。もう一つは、リスナーからの“直接、何故帰国しなかったのか、ごめん、を聞きたくない”という声に対して、直球で答えていない。私個人としては、それ

以上のことは木村さんに期待をしていなかったけれど、ファンのためにはあったらより良かったな、と思う。

ファンであるリスナーからの手紙にあったとおり、自分の生活の一部がここで崩壊する、と感じるまで感情が高ぶった状態で聴けたのならば、また違うかもしれない。しかし、そうではない一般的なリスナーとしては言葉をもう少したくらむか、逆にファンからの質問に直球で答えることができているならば、すごく興味を持てたのではないかと感じる。

○この番組の普段の空気感がわからないので審議することが難しいが、ありきたりな“模範解答”を超えることができなかつたと感じる。特殊な出来事だし、特別な編成だったので、リスナーからの質問にストレートに答える訳にはいかなかったと思う。だから、この回答が及第点であったかどうかも含め、聴く側の認識の深さによっても受け取り方や評価の仕方もいろいろあると思う。しかし今回聴いた印象では、“リスナーの今回の意見を聴いて、受け止めましたよ”というところで言葉が止まっている。立場的にコントラストの効いた発言ができないにしても、やはり何か感情を想像できるようなコメントがあったら良かったと感じた。読み上げたリスナーの感想も同じようなもので、それに対しての木村氏のコメントも変わらなかつたから、みんなの感情が動いているエモーショナルな出来事であったことがうまく伝わってこない。もっと傍から見ていて、激しい感情の応酬があったはずなのに、今回これを聴いてよかったな、ひとつ残るものがあったな、というような“言葉”が感じられなかつた。

感情的になってほしいとか、そういうパフォーマンスを見たい、ということではない。報道的にも盛り上がっていた時期だったので難しかったし、審議にかける内容としてもどうかと思ったが、もっとリスナーが期待していたものが“形”になっていれば良かった、という印象だ。

○そもそも審議対象番組として適切でないのではないかと感じた。というのも、今回の出来事は非常に特殊であるし、審議コメントを言うことが、即ちワイドショー的なコメントに陥りかねないと思う。次回以降の審査番組はもっと精査して臨んでいただきたい。

○この時期に木村氏のレギュラー番組を編成できていたということは、普段 TOKYO FM を聴くことのないファンをリスナーに取り込む大チャンスであったと思う。しかし、試聴してみたところ、その大チャンスを活かしきれなかつた、という感じがした。もちろん“話せないこと”がすごく多いと思う。だから TV でも話せなかつた訳で、よくここで“解散”のテーマについて取り上げたと思った。そこに対しては素直に評価したいと思うが、答えがすごく半端だつたと感じた。結局、リスナーからのメールを読み上げて、ソツのない答えを返すしかなかつた木村さんが垣間見え

て“ああ、話せないことが多いんだな”ということがわかっただけだった。リスナーの方からのメールに「何故すぐにハワイから帰国しなかったんですか、なぜ解散を止めなかったんですか」というものがあったが、あのメールを読み上げたこと自体がすごいと思う。それは、おそらく多くのファンのみならず知りたいことだから。しかし、それに対する答えについては、ほとんどないのと一緒に、今は話せないことが多いんだなという状況が、よくわかっただけだった。木村さんがすごく一生懸命な口調で答えていただけに、制作者サイドがTVとは違うんだ、ということを見せるためにも、もう少し内容について提案できることがあっても良かったんじゃないかと思う。おそらく本人も配慮しながら話すだろうけれども、それでももう少し違う側面から話せたのではないか。チャンスを活かすことができず、もったいなかったな、という気がした。

○おそらく言えないことばかりだし、むしろ番組側としては“このタイミングで出演いただけただけで、ありがたい”という環境だったのではないかと思うが、この出来事をどう受け止めるかっていう部分が、ラジオ制作者の腕の見せ所だったと思う。つまりそれがTVであれ、ラジオであれ、放送では制約がいっぱいあるのでそれをどうやって処理するか、ということが一番だと思う。しかし、番組としてどういう聴こえ方になるか、というようなことについて、もう少し制作者サイドで詰めた方がよかったのではないだろうか。つまり、ラジオ番組としての在り方を改めて問われた回だったと思う。今回の件のような場合には、ただ淡々と流せばいいというものでもなく、そこにどう緊張感を与えるか、というための演出にもう一工夫あれば良かった。それはもちろん制約がある中での話だから、できることできないことがあるのは前提の話。例えば、木村さんがスタジオのドアを開けて「ガチャン、おはよう！」って入ってくる音から始まるだけでも、いつもと違う緊張感を生むことができたと思う。つまりその“いつもとは違うんだっていうことをどう演出するか”ということは、いろんな制約の中でもTFM側ができたことではないかと思う。

いろいろと方法論を提案する中で、木村さんがやりたくない、事務所がやらせたくない、っていうことはもちろんできない訳だが、でも、TFMの番組のため、出演者である木村さんのため、どれだけ提案できたのだろうという努力の跡が見えない。当時のメディアが何日の放送でどんな放送がされるのかと、こぞって注目していた訳だから、もし自分がこの番組の作家だったら、普段はリスナーからのお便りを読むけれども、今回は全部拾えないし、答えられないですよ、と。だとしたら、もうSMAPの曲だけを流す回という方法に徹底する。例えば『ありがとう』という曲の合間に、木村さんの「いいよね、この曲」っていう一言コメントがボソッと入ってまた曲に戻るとか。つまりコンセプトは“ファンと一緒にSMAPの曲を聴こう”っていうだけにすれば、もしかしたら普通にコメントとして喋った以上のことがファンに伝わったかもしれないし、もっと話題になったような気がする。自分のレギュラー番組でコメントをするかと思ったら、SMAPの曲をただファンと一緒に聴いていた

だけだった。けれどそこにはいろんな想いがあって、木村さんが曲が終わるたびに一言ずつコメントをしていた、とか。そういう構成でやりませんか、という提案を構成作家やディレクターのような人間ができたのではないか。一応、そういう提案を10パターンくらいぶつける手間とか遠回りが、面白い番組を作る源なのではないかな、と思う。時期的に事務所関係者も木村さんもナーバスな時だから、そんなことをずうずうしく言える時ではない、ということは十分にわかるんだけど、そういう提案がかえって本人を救う一助になったのではないか。そこに何かTFMとしてラジオマンとして、一応考えて、全力で取り組んだが、ここまでが限界でした、というようなことが見えてきてほしかった、という気がする。また、番組後半に出てきて、突然質問をした女性は何だったのか？

■普段から聴いている人でないとわからないかもしれないが、番組上の影アナの設定である。

○木村さんの心情的にもリスナーの心情的にも内容を混乱させてしまうので、例えレギュラーでやっているのだとしても、今回は入れない方がよかったのでは。または、あの女性に「何ですぐにハワイから帰ってこなかったんですか？」というキツめの質問をさせるとか。あの部分で突然に夏休みの宿題の話をしてても全く面白くない。そこに構成作家、ディレクター、プロデューサーの知恵が入っていないといけないと思う。ただ、全てお任せします、ここでこの話題に触れてください、に終始しているところが垣間見えて、本当にもったいないと思う。

○他の委員の方からのお話にもあったが、こんなにリアルな番組なのに、何もリアルなことを話していない、と感じさせてしまっている。もう少しスパイスが効いていけば、番組としてももう少し面白かったのでは。これは編集されたものだったのか？

■19日放送の素材についてはハワイから送っていただいたものだったので、そのまま放送した。26日放送の素材については、あまり編集を入れていない。もちろん事務所サイドにもご確認いただいたが、結果的にあまりメスが入らなかった。

○試聴番組としては特殊だったが、前のめりで聴いたファンもいると思う。とにかく木村さんが元気であることを確認するだけでも、うれしい方がいらしたのではないだろうか。

■他のSMAPメンバーがパーソナリティを務める他局のラジオ番組では、15日週の放送ではそれぞれが解散についてのコメントを述べていたが、22日週の放送については通常放送に戻っていた。しかし当社では、この件については自分自身の言葉で

語りたい、という木村さん自身の想いを尊重して、このような構成でお送りした 30 分となった。リスナーの皆様からは、今も当社に対して「番組をやめないでほしい」という声が多く届いている。今後も、今回試聴いただいたような番組編成にしなくてはいけないときが来るかもしれないが、その時の世論や今回ご審議いただいた内容なども踏まえて番組制作に臨みたいと考えている。

○どうしたらこの番組がロコミで話題になるのか、ということについて制作者の頭の考えになさすぎると思う。この番組の内容でいくのであれば、ディレクターなり構成作家なりが「何千通のお便りをいただきました」というコメントをして、“木村さん、今回のメッセージを全部持って帰って、もう一度読む”というコメントを足した方がいいよ、という提案があるべきだった。そして番組の最後でもいいから、「みんな、たくさんのメールをありがとう。みんなの気持ちを大切に思っている。もう 1 回、家に帰って全部読むよ」って言うだけで翌日のニュースの話題になる。

つまり、あざといかもしれないが、それが演出というものだと思う。演出というのは、ヤラセではなく、演出される側が及ばない点をわかりやすくしてあげるためのもの。それは構成作家、木村さん、プロデューサー、ディレクター、番組関係者みんなの信頼関係の上に成り立つものだと思うけれど、ラジオのような少人数で回している組織の人間関係というのは、そういうものだと思う。ただ台本を書く、ただ選曲をする、というものだけではなくて「こういうことをやってみたらどうですか？ こういう言葉を一言入れた方がいいですよ」とアドバイスする。それが翻って、マイクの前に座ることで気持ちがいっぱいになっているパーソナリティへの“思いやり”であると思う。その一言によって、木村さんというパーソナリティと築いてきた人間関係から知り得た彼自身の人柄の良さを、スタッフが放送を通じてファンやリスナーに伝える一助となる。それが、TFM というステーションのためでもあるし、他でもない大事なパーソナリティのためになる。

■相当な量のメールが番組宛てに届き、その当時可能だった範囲で相当踏み込んだ放送をしたはずだったが、結果として、日頃のファンコメントの域から大きく出るものではない番組になってしまっていたのは事実だと思う。そこにおける構成・演出や表現の方法というものについて、多少アイデアが足りていなかった、ということについては委員の皆様のご指摘の通りであったと思う。今回の委員の皆様のご意見について真摯に向き合い、改めて制作スタッフと共有をしていきたいと思う。

5. 放送番組審議会の内容について

審議会の意見は、放送番組審議会事務局から各担当部長に伝達した。

<第 431 回放送番組審議会議事録>

6. 公表

議事内容を以下の方法で公表した。

- ① 放送:番組「SPO☆LOVE」
9月24日(土)5:00～6:50放送
- ② 書面:TOKYO FMサービスセンターに据え置き
- ③ インターネット:TOKYO FMホームページ内 <http://www.tfm.co.jp>

7. その他

次回の放送番組審議会を、10月4日(火)に開催することを決めた。